

演習

環境調整による支援と 記録に基づく支援の評価

1

演習の内容

1. 演習のねらい
2. 事例の紹介
3. 演習Ⅰ（アセスメントのポイント）
4. 演習Ⅱ（支援内容の見直し）
5. 演習Ⅲ（支援手順書の作成と記録の活用）
6. まとめ

2

1. 演習のねらい

3

この演習の獲得目標

- ① 相談支援専門員・サービス管理責任者等の障害福祉サービス従事者、その他関係者が、高次脳機能障害者児の支援上の課題の解決に向けて、再アセスメント・支援の見直しを行うことができる。
- ② 生活支援における環境調整の視点や、記録の活用の重要性について理解する。

4

障害福祉サービス従事者にとっての 高次脳機能障害者児支援の節目

- ① 医療機関での治療・リハビリを終え、障害福祉サービスを利用する場合
- ② 障害福祉サービスの利用後、支援上の課題が生じて、支援内容の見直しが必要な場合
- ③ 医療や福祉・教育との関係が途切れて、「埋もれ」てしまったケースの「掘り起こし」

5

2. 事例の紹介

6

TRさん (30代女性・精神障害手帳2級・障害基礎年金2級)

<生活歴>

- 大学在学中 (19歳) のとき、脳炎により意識不明となった。
- 意識回復後も寝たきり状態が続き、高次脳機能障害の診断も受けた。
- リハビリにより独歩が可能となり一旦退院したが、将来の生活を考へて、施設入所による自立訓練事業を利用した (21歳)。
- 就労移行支援事業を利用し、トライアル雇用を経て、介護施設でパート勤務することとなった (22歳)。
- 親元から離れた自立した生活を本人が希望し、ヘルパー利用をして、マンションで一人暮らしを始めた (31歳)。
- 1ヶ月ほどで訪問するヘルパーへの好き嫌いを口にするようになり、ケア中に奇立った様子を見せることも目立ってきた。

7

本人・家族の希望

<本人>

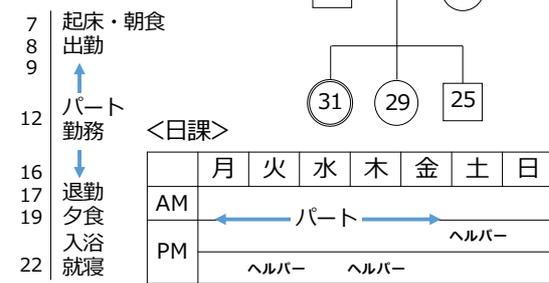
- 一人でも生活できるようになりたい。
- 新しいことはすぐに覚えられないので、自分のペースで取り組んでいきたい。
- 両親以外にも相談できる相手を見つきたい。
- 自分の障害のことを理解して欲しい。

<家族 (両親)>

- 自分たちが元気なうちに、一人暮らしができるようになって欲しい。
- 家族以外にも相談できる相手を見つけて欲しい。
- 本人の障害やペースに合わせて支援をして欲しい。

8

情報①



9

情報②

領域	主な情報
生活基盤	収入：基礎年金2級+パート給与 (11万円ほど)
健康・身体	服薬後は包装をとっておき、翌日捨てる。
日常生活	ADLは自立
コミュニケーション	他者の意思理解が難しいことがある。
社会生活	屋外移動：慣れない場所への移動や移動先での行動に不安 金銭管理：通帳管理やATM使用に支援が必要。
余暇・趣味	交友関係はほとんどない。スマホで音楽を聴く。
教育・就労	
家族関係	
障害特性	記憶力低下 (繰り返しにより改善が期待できる) 情報処理速度低下

10

情報③

<ヘルパー事業所 (サービス提供責任者) からの情報>

- ヘルパー3名で対応している。
- ケア開始時のサービス担当者会議で役割分担したことに沿って、家事援助 (調理、洗濯、掃除の部分支援) と移動支援 (買物) を提供している。
- 本人の様子やケア内容は、ヘルパー間でノートを介して共有している。
- ケアを開始して1ヶ月ほどで、ヘルパーを特定の1名に固定して欲しいという要望をいただいたが、他のケアの関係もあり、困っている。
- また、ケア中に険しい表情で、気になることを繰り返し言い続けることがあり、ヘルパーはどう対応してよいか分からず、困っている。
- 嫌な思いをしたり、苛立つと、母親にLINEするようで、母親からも問い合わせを受ける。

11

3. 演習 I

12

課題解決に向けたアセスメント

本人の希望に基づいて、一人暮らしを始めたTRさんですが、1ヶ月ほどで、訪問するヘルパーへの好き嫌いを口にするようになり、ケア中に前立った様子を見せるようになってきました。

ヘルパー事業所でも対応に困っており、この状況が続くとケアの継続は難しくなるかもしれないとのことです。

支援チームのリーダー格であるあなたは、何とかしたいと思っていますが、

- (1) 課題解決に向けて、どんな情報が必要ですか？
- (2) それはどのような見立て（仮説・想像）によるものですか？

13

個人ワーク10分 グループ共有15分

14

ワークシート①

(1) 課題解決に向けて、どんな情報が必要ですか？

(2) それはどのような見立て（仮説・想像）によるものですか？

15

追加情報①

領域	主な情報
生活基盤	収入：基礎年金2級+パート給与（11万円ほど）
健康・身体	服薬後は包装をとっておき、翌日捨てる。
日常生活	ADLは自立、IADLは一部支援（記憶障害・遂行障害の影響）
コミュニケーション	他者の意思理解が難しいことがある。
社会生活	対人関係：思うようにならずに可立つ。好き嫌いが顕著。同世代をライバル視。屋外移動：慣れない場所への移動や移動先での行動に不安 金銭管理：通帳管理やATM使用に支援が必要。
余暇・趣味	交友関係はほとんどない。スマホで音楽を聴く。
教育・就労	情報の視覚化が必要。職場環境の変化が情緒に直結する。週1回の面談で安定している。プラス評価が不可欠（失敗を過度に嫌う）。
家族関係	自分で判断ができず、家族を頼りがち。
障害特性	記憶力低下（繰り返しにより改善が期待できる） 情報処理速度低下

16

追加情報②

TRさん自身は・・・

- ・ヘルパーによって言うことややるが違うから困る、頭が混乱する、イライラしてくる。
- ・インターフォンを鳴らした後、挨拶だけの人、事業所名と名前を告げる人、名前だけ言う人がいる。
- ・買い物と一緒に出かけても、私がメモを忘れてきて無駄になったことがあった。メモがあっても、どの店で買えばよいか分からないこともあった。買い物メモを作るときも手伝って欲しい。
- ・一緒に調理をするときなど、いろいろなことを言う人がいる。
- ・自宅の警備システムをセットし忘れたこともある。

17

見立て（例）

- ・ヘルパー間の情報共有が不十分で、ケアに統一性がなく、本人を混乱させているのではないか。
- ・いくつもの用件を、配慮なく、本人に口頭で伝えて済ませてしまい、理解できないままになっているのではないか。
- ・ケア内容やヘルパーの人选に、本人の意向が反映されていないのではないか。
- ・できたことを評価する場が必要なのではないか。
- ・必要な相談相手が身近にいないのではないか。

18

4. 演習Ⅱ

19

課題解決に向けた支援の見直し

これまでの情報や「見立て」を踏まえ、どのように支援の見直しを図りますか？
必要な取組を挙げて下さい。

20

個人ワーク15分 グループ共有30分

21

ワークシート②

解決すべき課題	取り組むべきこと	留意点
1.		
2.		
3.		
4.		
5.		

22

ワークシート②（記載例）

解決すべき課題	取り組むべきこと	留意点
1.ヘルパーのケアの統一	ヘルパーの支援手順書を作成し、訪問からケアの提供一連の手順のポイントを統一する。	本人の役割も明確にする。 必要な声かけも統一する。
2.やることを忘れてしまう	忘れやすいことをメモする、目につく場所に貼る。	本人と話し合って決める。
3.好き嫌いが激しい	同世代のヘルパーを選べる。 事業所内で、障害特性についての学習会を行う。	支援手順書に従ってケアに入ることが出来るヘルパーを増やすことも必要。
4.できたことを評価する機会が必要	本人と、できたことを確認する機会を定期的に設ける。	本人と振り返ることができるよう記録をとる。
5.家族以外に相談できる相手がいない	生活面の相談相手を見つけるために、職場の定期相談を参考にする。	

23

5. 演習Ⅲ

24

支援手順書の作成と記録の活用

TRさん

「買い物と一緒に出かけても、私がメモを忘れてきて無駄になったことがあった。メモがあっても、どの店で買えばよいか分からないこともあった。買い物メモを作るときも手伝って欲しい。」

「買い物をするときにメモを見忘れたり、メモを見ていても買い忘れたりすることがある。」

(1) どのようなことをヘルパー間で共有しておけば、改善できるでしょうか？

25

個人ワーク10分

26

ワークシート③

(1)

サービス内容	手順・留意事項・観察ポイント	本人の役割
買い物準備		
買い物支援 (移動支援)		

(2)

振り返りの留意点

27

ワークシート③ (記載例)

サービス内容	手順・留意事項・観察ポイント	本人の役割	記録
買い物準備	1) 冷蔵庫内の食材や調味料、その他の必要品を確認して、買い物メモを作成する。 2) 購入する店舗ごとに書き出す。	ヘルパーと一緒に買う物を決めて、行く店ごとにメモに書き出す。メモを財布に入れる。	メモを財布に入れるのに、声かけが必要でした。
買い物支援 (移動支援)	1) 本人が商品を選ぶ・支払いをするのを見守る。 2) 支払いの前に、買い忘れがないか確認する。	メモを見ながら、買い物をする。レジにならぶ前に、買い忘れがないか確認する。	メモを出さずに買い物始めたので、声かけしました。

振り返りの留意点

28

記録のまとめ

利用者名	TR 様	作成者名	○○ ○○	令和4年 月 日作成						
本人の役割	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
買い物準備	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
買い物	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
：										
：										

◎ 自立 ○ 見守り △ 声かけ ▼ 困難

【備考】
買い物準備は、声かけがなくてもできています。
買い物は、店内が混んでいると焦ってしまっています。

29

支援手順書の作成と記録の活用

(2) 記録を踏まえて本人と振り返る際の留意点を挙げましょう

30

ワークシート③

(1)

サービス内容	手順・留意事項・観察ポイント	本人の役割
買い物準備		
買い物支援 (移動支援)		

個人ワーク5分 グループ共有5分

(2)

振り返りの留意点

31

ワークシート③ (記載例)

サービス内容	手順・留意事項・観察ポイント	本人の役割	記録
買い物準備	1) 冷蔵庫内の食材や調味料、その他の必要品を確認して、買い物メモを作成する。 2) 購入する店舗ごとに書き出す。	ヘルパーと一緒に買う物を決めて、行く店ごとにメモに書き出す。メモを財布に入れる。	メモを財布に入れるのに、声かけが必要でした。
買い物支援 (移動支援)	1) 本人が商品を選ぶ・支払いをするを見守る。 2) 支払いの前に、買い忘れがないか確認する。	メモを見ながら、買い物をする。レジにならぶ前に、買い忘れがないか確認する。	メモを出さずに買い物始めたので、声かけしました。

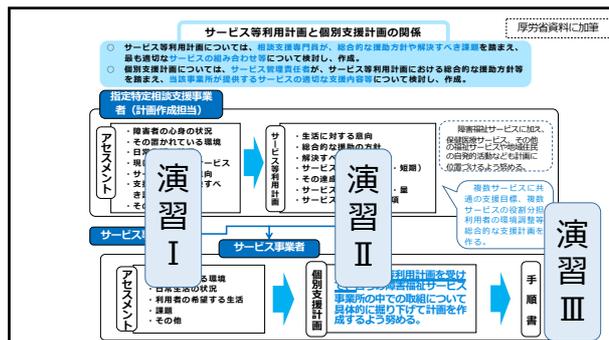
振り返りの留意点

- ・その日のうちに、課題を確認しておく。
- ・否定的な表現は避け、次回に向けた励ましを心がける。
- ・一定期間内の振り返りにより、必要に応じて本人と支援方法を見直す。

32

6. まとめ

33

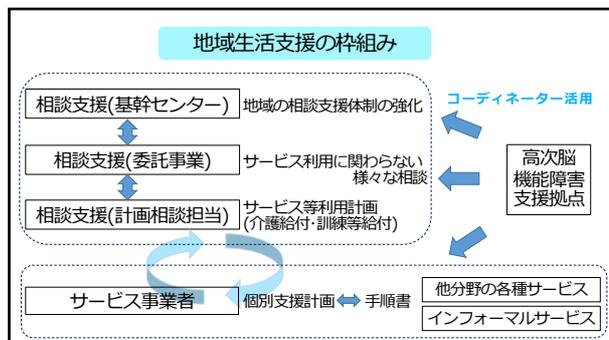


34

障害福祉サービス従事者にとっての
高次脳機能障害者児支援の節目

- ① 医療機関での治療・リハビリを終え、障害福祉サービスを利用する場合
- ② 障害福祉サービスの利用後、支援上の課題が生じて、支援内容の見直しが必要な場合
- ③ 医療や福祉・教育との関係が途切れて、「埋もれ」てしまったケースの「掘り起こし」

35



36

サービス等利用計画から個別支援計画へのつながり

【紹介例1】

- 職場復帰を目指して、一人暮らしをしながら自立訓練に通う40代男性のケース
- 支援の比重が、居宅介護や自立生活援助に移りつつある時期
- 居宅での支援では「一緒に行く」ことを重視し、再就労に向けて本人の役割を増やしていく
- 本人の希望を尊重しながらも、現実的な認識を促していきたい

37

サービス等利用計画			
利用者氏名	性別	生年月日	利用開始年月
佐藤 太郎	男	昭和50年3月10日	令和4年3月10日
利用計画の目的	一人暮らしを続けながら訓練を受けて、また転職として仕事に戻りたい。		
利用計画の方向	仕事復帰に向けて、まず日常生活の中でできることを増やしていくよう支援する。体重の増加に気を付け、生活リズムが維持できるよう話し合っていく。		
実施内容	一人暮らしに自信を持つ。仕事復帰に向けた訓練を受ける。		
実施内容	一人暮らしを続けながら、健康を維持する。		
実施内容	実施日時	実施場所	実施者
1. トレーニングを開始したい。日中の強い光が苦手。	毎週月曜、水曜、金曜	居宅	ヘルパー
2. 在宅に一人でいたい。	毎日	居宅	ヘルパー
3. 自宅内の掃除や洗濯を自分でやりたい。	毎週土曜	居宅	ヘルパー
4. 一人暮らしのアドバイスをして欲しい。	毎月	居宅	ヘルパー

38

サービス等利用計画【連携計画表】			
利用者氏名	性別	生年月日	利用開始年月
佐藤 太郎	男	昭和50年3月10日	令和4年3月10日
利用計画の目的	一人暮らしを続けながら訓練を受けて、また転職として仕事に戻りたい。		
利用計画の方向	仕事復帰に向けて、まず日常生活の中でできることを増やしていくよう支援する。体重の増加に気を付け、生活リズムが維持できるよう話し合っていく。		
実施内容	一人暮らしに自信を持つ。仕事復帰に向けた訓練を受ける。		
実施内容	一人暮らしを続けながら、健康を維持する。		
実施内容	実施日時	実施場所	実施者
1. トレーニングを開始したい。日中の強い光が苦手。	毎週月曜、水曜、金曜	居宅	ヘルパー
2. 在宅に一人でいたい。	毎日	居宅	ヘルパー
3. 自宅内の掃除や洗濯を自分でやりたい。	毎週土曜	居宅	ヘルパー
4. 一人暮らしのアドバイスをして欲しい。	毎月	居宅	ヘルパー

39

自立生活援助 個別支援計画			
利用者氏名	性別	生年月日	利用開始年月
佐藤 太郎	男	昭和50年3月10日	令和4年3月10日
利用計画の目的	一人暮らしを続けながら訓練を受けて、また転職として仕事に戻りたい。		
利用計画の方向	仕事復帰に向けて、まず日常生活の中でできることを増やしていくよう支援する。体重の増加に気を付け、生活リズムが維持できるよう話し合っていく。		
実施内容	一人暮らしに自信を持つ。仕事復帰に向けた訓練を受ける。		
実施内容	一人暮らしを続けながら、健康を維持する。		
実施内容	実施日時	実施場所	実施者
1. 体重が増えない生活習慣を身に付けたい。	毎日	居宅	ヘルパー
2. 業務や手帳を一人で扱うことが苦手。	毎日	居宅	ヘルパー
3. 自立訓練に通っているが、収入が不安定で生活が厳しい。	毎日	居宅	ヘルパー

40

居宅介護支援計画から手順書・記録へのつながり

【紹介例2】

- 一人暮らしの定着を図る30代女性のケース
- ヘルパー利用による不安の軽減のため、手順書を詳細に作成し、本人と共有
- 否定的な声かけに敏感なため、記録やフィードバックの際に留意し、信頼関係の構築に努めている
- フィードバックの際に、「記録のまとめ」を活用している

41

居宅介護支援計画			
利用者氏名	性別	生年月日	利用開始年月
佐藤 太郎	男	昭和50年3月10日	令和4年3月10日
利用計画の目的	一人暮らしを続けながら訓練を受けて、また転職として仕事に戻りたい。		
利用計画の方向	仕事復帰に向けて、まず日常生活の中でできることを増やしていくよう支援する。体重の増加に気を付け、生活リズムが維持できるよう話し合っていく。		
実施内容	一人暮らしに自信を持つ。仕事復帰に向けた訓練を受ける。		
実施内容	一人暮らしを続けながら、健康を維持する。		
実施内容	実施日時	実施場所	実施者
1. 体重が増えない生活習慣を身に付けたい。	毎日	居宅	ヘルパー
2. 業務や手帳を一人で扱うことが苦手。	毎日	居宅	ヘルパー
3. 自立訓練に通っているが、収入が不安定で生活が厳しい。	毎日	居宅	ヘルパー

42

TR 種 支援手帳書

別紙 ■自宅内見回り ■確認用 □その他

事業計画 ヘルパー支援センター
 実施者 ○○ ○○

提供日 年 月 日 ()

所要時間	サービス内容	予備・留意事項・難関ポイント	本人・家族の役割	記録
5分	訪問 挨拶	到着時刻に到着する。 ご自宅(2階202号室)に行き、イン ターフォンを鳴らす。カメラに向 かって身元を確認せよと電話が 来たので、挨拶して入室する(室 内では声が大きくならないように 注意する)。	インターフォンが鳴った ら、身分証を確認して玄 関を開ける。	
10分	買物準備	ヘルパーノート(前回の買物)、冷 蔵庫内、必要品メモを照らし合わ せて、買物メモを作成する。行く店も 決める。	ヘルパーと一緒に買物 を決めて、行く店ことに メモに書き出す。財布に入 れる。	メモを財布に入れるのに声かけ が必要でした。
5分	資源ゴミ確認 外出準備	資源ゴミ(アルミ缶、スチール缶、 ペットボトル)が溜まっていたら袋 に入れて持ち出す。 玄関外で待ち、警備システムの セットと発着の確認を本人に行 う。	資源ゴミをヘルパーと確 認し、出すかどうか決 める。 警備システムをセットし、 玄関を発着する。	
60分	買物 移動支援	買物では、本人が商品を選ぶ・支 払いをするのを見守る。支払いの 際に、買い忘れがないか確認す る。	メモを見ながら買物をす る。レジにならぶ前に買 い忘れがないか確認す る。	メモを出さずに買物を始めたの で、声かけしました。

43

記録のまとめ

利用者名 TR 種 作成者名 ○○ ○○ 令和4年 月 日作成

本人の役割	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
買物準備	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
資源ゴミ確認	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
外出準備	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
買物	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
移動支援	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
・										
・										
・										

◎ 自立 ○ 見守り △ 声かけ ▼ 困難

【備考】
 ・「資源ゴミ確認」は一週間、自分で行うことができます。
 ・買物メモの作成は開始できますが、財布に入れたり、スーパーで取り出すことを忘れやすいようです。
 ・日×日 注文をメールに書き忘れています。

44

© 厚生労働科学研究：高次脳機能障害の障害特性に応じた支援者養成研修カリキュラム及びテキストの開発のための研究班

45